2023年
冬号

とっとり通信

鳥取県のグルメ、観光、文化など
旬の情報をお届けします。

■列車に乗らなくても楽しめる JR米子駅がリニューアル！

新設された「米子駅・南口」。タクシー乗り場や駐輪場・駐車場も完備されている。

JR米子（よなご）駅は今夏、線路をまたぎ南北をつなぐ通路「がいなロード」をはじめ、駅舎や駅ビルを新設しリニューアルした。改札は1階から2階に移り、駅ビルには山陰初出店の飲食店も登場。新たに整備された南側には、バスやタクシーの乗降場、駐車場や駐輪場も設置され、両方向からのアクセスが容易になった。

「顔や手を出したらいけんよ、危ないけん」と米子弁のアナウンスが流れるエスカレーターに乗り、2階へ。天井や壁に智頭（ちづ）杉を使用した、全長約140m、幅員約6mの「がいなロード」が現れる。両側にある大きなガラス窓からは、にぎやかな街並みや美しい稜線、線路を行き交うさまざまな列車を一望できるほか、隣接する後藤総合車両所の登録鉄道文化財「扇形車庫」も見られる。

ロードの途中には地元の伝統工芸品「弓浜絣（ゆみはまがすり）」などを取り入れたベンチがあったり、壁には米子市公式キャラクター「ヨネギーズ」が隠れていたり。また、駅ビル内のベーカリーショップでは、焼き印が入った「米子あんぱん」を販売中。

列車に乗らなくても楽しめる、新スポットが誕生した。

「米子あんぱん」は粒あんとミルククリーム入り。

広報連絡協議会のWEBサイト内「読み物room」では、オリジナルエッセイを連載中。絶品バーガーからきのこ、ブックレビューまで多彩に展開。

■ 美しく愛らしい姿を間近で オシドリの飛来シーズン本番

©鳥取県

赤いくちばしに、白や緑、だいだいなどのカラフルな羽毛に包まれたオシドリが、日野町の日野川に飛来する季節になった。昨年11月に観察小屋を新設、5台のスコープや高さの異なる8つの窓が設置され、間近でゆっくりと美しい姿を観察できるようになった。

日野川では11月から翌年3月頃までがシーズン。約30年、オシドリの世話を続ける町民有志の「オシドリグループ」事務局・森田順子さんによると、「寒くなるほど飛来数が増え、早朝（夜明け～8時頃）と、夕方（16時頃～日暮れ）によく集まる」という。小屋には、鳥の図鑑やパンフレットがあり、ガイド役のスタッフも常駐しているので、気軽に尋ねて欲しいとのこと。

観察は、小屋からだけでなく日野川沿いの通路に設置された壁からもでき、オシドリの行動や食事についての雑学も掲示。多い時には約1,000羽が飛来し、期間限定の美しい舞を堪能できる。

観察小屋にはストーブなどの暖房もあり、長時間の観察も快適。

■オシドリ観察小屋
住　　所：日野郡日野町根雨310
電　　話：0859-72-2101（日野町役場・産業振興課）
開 館 日 ：～翌3月31日
休 館 日 ：第2・4水曜日、12月31日、1月1日
開館時間：7時～17時
入 場 料 ：300円（18歳以下無料）　※専用駐車場あり